

令和2年度 京都府立大江高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>知情意体の調和のとれた発達を図り、時代の変化に主体的に対応できる、日本や地域社会の未来を担う人間を育成する。</p> <p>■ 本校が目指す学校像</p> <p>◆ 「大江高校に来てよかった」と思える学校</p> <p>◆ 第1希望の進路が実現する学校</p> <p>◆ 地域から愛される学校</p> <p>■ 本校が目指す生徒像</p> <p>◆ 知・情・意・体のバランスがとれた生徒</p> <p>【知】基礎学力の定着</p> <p>【情】豊かな心</p> <p>【意】チャレンジ精神</p> <p>【体】健康な身体</p>	<p>1 成果</p> <p>(1) 系統的かつ計画的に進路指導を行い、12年連続で就職内定率100%につながった。</p> <p>(2) 京都フロンティア校（地域創生推進校）として、これまでの成果を継承し、体験型学習としてのアクティブ・ラーニングを中心に学習効果を高め、今年度も成果を上げることができた。</p> <p>(3) 様々な学力層の生徒が混在する中で、各教科で授業の進め方や教材などを工夫したり、多面的な学びを提供できた。特に今年度から京都府教育委員会が3カ年計画で取り組む「スマートスクール推進事業」により教室に最新のプロジェクターが設置され教師用タブレット端末が整備されたことにより、ICT機器を活用した質の高い授業について研究し実践を始めた。</p> <p>また、第2学期後半から京都府教育委員会が取り組む事業である「セカンドラーニング教室」を活用し定期考査前の特別講習を実施することができた。</p> <p>(4) マナーアップを目指し、登校時に生徒指導部をはじめ学年部の教員が校門での積極的な声かけ等、年間を通して取り組むことができた。また、課題となっていた問題行動もねばり強い指導によって改善の方向に向かっている。</p> <p>(5) 授業や部活動において、専門的な知識・技能を高める指導により、優秀な成績を収めることができた。成績については以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 第66回全国高等学校ワープロ競技大会京都府予選準優勝</li> <li>◆ 第66回全国高等学校ワープロ競技大会出場</li> <li>◆ JAPAN Student Jazz Festival 2019 奨励賞</li> <li>◆ 京都府私立中学高等学校商業教育研究会主催第32回ワープロ競技大会団体優勝</li> <li>◆ 令和元年度京都高校写真連盟作品審査会個人の部佳作 令和2年度近畿総合文化祭出展予定</li> <li>◆ 京都府防犯まちづくり賞受賞 ◆ JR乗車マナー向上ポスター最優秀賞受賞</li> <li>◆ 第15回IPA「ひろげよう情報モラル・セキュリティコンクール」4コマ漫画部門優秀賞受賞</li> <li>◆ 「森の京都」観光プランコンテスト京都府知事賞（最優秀賞）受賞</li> </ul> <p>(6) ワーキンググループを立ち上げ、学科改編により次年度開設する「地域創生科」の教育課程の編成を始めとする教育内容の策定を進めることができた。その中で、各系統を組織的に運営するための系統長を定め、シラバスの作成など具体的な指導内容と評価について検討することができた。</p> <p>2 課題</p> <p>(1) 新学科「地域創生科」の完成年度である令和4年度での的確な目標を策定し、それにむけた具体的な取組をさらに推進する必要がある。</p> <p>(2) 学習指導については上記の通り一定効果が見られるが、全体的な学力向上の実現には課題が残っており、体系的な学び直しの手立てを検討する必要がある。</p> <p>(3) 部活動については、加入率が低くなり苦慮しているところであり、その意義や効果について広く指導し活性化を図る必要がある。</p> <p>(4) 次年度に改編する新学科「地域創生科」の中学生及び保護者に対する教育課程等、教育内容の周知が十分に進まず、生徒募集においても定員を大きく下回ることとなった。ホームページの更新についても、更新が遅れている内容が多く、その整理に時間を要し2学期当初によりやく整えることができた。今後は画面の構成も含め、工夫を凝らした魅力ある内容にしていきたい。</p> <p>(5) ゴミ分別が不十分なクラスが見受けられる。学校全体でゴミの分別やゴミの減量への意識向上に繋がる取組が必要である。</p>	<p>1 感染症に係る緊急対応に迅速かつ確に対処できる体制の構築 新型コロナウイルス感染症の拡大が地球規模で進むなか、法及び国・京都府がガイドラインで示す内容を具体的に実践し、感染拡大の防止に努めるとともに、他の感染症を含めた防疫に係る知識や技能を高める教育活動を展開する。</p> <p>2 「生徒を伸ばす教育」の推進 きめ細かく粘り強い指導を行うとともに、個に応じた学力の向上を図り、全生徒が「第1希望の進路が実現でき、本校に入学して良かった」と実感できるように努める。また、家庭との連携や地域との協働により、学校・家庭・地域の三者で生徒を育てる。</p> <p>3 スマートスクール化の推進 ～教え方改革に実践～ 配備された電子黒板等のICT機器を効果的に活用し、ソサエティ5.0で想定される新たな教育システムの構築を目指す。日常の授業においてはICT機器が得意とする機能を十分に活用し、生徒たちが自らが活用できる時間を増やすことによって、講座内での共同・協働を通して学び合うことができる授業を展開する。</p> <p>4 地域創生科の発展充実と戦略的な広報活動の展開 令和4年度の完成年度を目指し、教育課程が示す目標の達成をめざす。今年度においては、総合学科に設置される教科「産業教育と人間」のなかで、学ぶことの意義や目的について理解を深めさせる。 また、前年度の志願者数が大きく定員を下回ったことから、中学校への出張説明会や塾への広報活動、マスメディアやホームページを通じた教育活動の発信により周知を進める、志願者数の増加に繋げる。</p> <p>5 社会人基礎力を身に付けるために必要なマナーアップを3つの視点からさらに推進し、将来地域を担う人材の育成につなげる。</p> <p>(1) 通学上のマナーアップ 公共交通機関での乗車マナーの向上及び通学路でのマナーアップによって、社会の一員としての規範意識を高める。</p> <p>(2) 校内でのマナーアップ あいさつの励行、携帯電話の使用、ゴミ・環境問題など、校内でのマナーアップに努め、安心・安全で清潔な学校環境づくりに取り組む。</p> <p>(3) 授業のマナーアップ 積極的な授業態度や家庭学習の習慣化により、学ぶ姿勢の育成と基礎学力を向上させる。</p> <p>6 安心・安全な学校の構築 ～感染症拡大の防止～ いじめ防止の取組、防災教育・交通安全教育、環境美化を推進し、安心・安全な学校環境を構築する。 また、喫緊の課題となっている新型コロナウイルスへの対応について、生徒及び教職員が高い意識を持ち、より良好な環境の構築を目指す。</p> <p>7 教職員の働き方改革の推進 業務改善、教員の負担軽減対策を講じることにより働き方改革を推進し、業務の効率化を図るとともに複雑化・多様化する課題に的確に対応できる組織づくりを行う。 また、月1回のノー残業デー（給与支給日）、考査期間中のノー会議、タイムマネジメントアクション（午後8時以降のやむを得ない業務の管理職への申告）等の具体的な取組をとって勤務時間の縮減を図る。</p>

評価領域	項目（重点目標）	具体的方策	評価	成果と課題
組織運営	学校改革と地方創生教育によるさらなる特色化の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 地域創生科系統長を基盤に、教育課程が示す教育目標を達成するための具体的な教育内容について検討し、教科「産業社会と人間」を通じて2年次以降の学びに向かう力力の育成を図る。</li> <li>■ 京都フロンティア校（地域創生推進校）指定校としてこれまでに取り組んだ地方創生教育をより体系的・効果的なものに整理し、地域の活性化につながる学習内容を充実させることで地域の未来を担う生徒を育てる。</li> <li>■ 学校設定科目を中心にアクティブ・ラーニングや体験活動の要素を取り入れ、普通科・ビジネス科学科の特色を生かした授業内容の研究を進めるとともに、今年度開設した地域創生科での一層の充実につながる取組を展開する。</li> </ul>		
	積極的な広報活動の展開による本校第1希望者の増加	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 広報紙発行、メディアリリース、ホームページの更新（リニューアルを含む）等を積極的に行う。</li> <li>■ 各種説明会やオープンスクール等の内容を充実させることで中学生・保護者・地域の本校への理解を深める。特に中学校での出前授業や体験授業を充実させることで本校の魅力を伝える。</li> </ul>		
	働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 教育活動を円滑に実施するためには、教職員の健康の充実が不可欠であることから、出退勤管理システムの記録を分析し、長時間勤務教職員の勤務時間の縮減に取り組む。特に、月1回のノー残業デー（給与支給日）、考査期間中のノー会議、タイムマネジメントアクションを確実に実行する。</li> </ul>		

学習指導・進路指導	「生徒を伸ばす学校づくり」の強化	<p>■生徒一人一人の能力・適性・特性に応じた教材や授業方法を工夫し、誰もが分かる授業を展開するとともに校内外での研修を継続的にを行い、授業力のアップにつなげる。 また、地域との連携等を通じて主権者教育、人権教育、道徳教育など様々な視点からの学びを提供する。</p> <p>■学年部と教科担当の連携を密にし、個々に応じた丁寧な指導を行う。特に学習に課題を抱えている生徒に対しては補習等の指導を粘り強く行う。</p> <p>■課題、小テスト、学習プリントに取り組みせたりすることで家庭学習と基礎基本の徹底を図り、確かな学力につなげる。</p> <p>■図書館の利用の促進、積極的な資格取得、コンテスト・コンクールへの参加等を奨励・指導することで、表現力や自己有用感の涵養につなげる。</p> <p>■系統的な進路指導計画に基づいて、低学年から個別面談やガイダンス等によるきめ細かい指導を行うことで、積極的に進路を考え、行動に移す力をつける。</p> <p>■キャリア教育・職業教育を充実させ、実践や体験から望ましい職業観・勤労観を育てる。</p>				
生徒指導	マナーアップ指導によるシブシブ教育の推進	<p>■通学上、授業、学校行事等を通じて、一貫したマナーアップの指導に取り組む。特に「乗車マナー」、「あいさつ」、「身だしなみ」、「言葉遣い」、「携帯端末の使用」、「清掃活動」等の市民生活を送る上で必要な基本的なマナーを全教職員体制で粘り強く丁寧に指導する。</p>				
生徒指導	安心・安全な学校の構築	<p>■教育活動全体を通して社会の一員としての生き方、生命の大切さ、交通安全について啓発する。また、地域、PTA、警察等とも連携した指導を行うことで、学校だけでなく、地域全体で生徒を育てる。</p> <p>■危険箇所等に対する迅速かつ適切な施設管理、また老朽化備品の廃棄及び備品整備を行うことで安心・安全な学校づくりを推進する。</p> <p>■新型コロナウイルス感染症の拡大防止に係る取組を具体的な取組を確実に実践し、臨時休校等の突発的な状況においても学習機会の保障に努める。</p>				
生徒指導	課外活動の活性化	<p>■部活動への加入を奨励し、活性化を図る。また、地域と連携したボランティア活動や本校独自の取組への参加を奨励することで、自己有用感の涵養につなげる。</p> <p>■生徒会執行部を基軸として各委員会を機能させ、各種学校行事を主体的に運営し、成功につなげることで、生徒会活動を充実させる。</p>				
保健・環境	健康相談の充実と要支援生徒に対する支援体制の確立	<p>■健康診断と事後指導を徹底し、また保健だよりやスクールカウンセラーの情報提供を定期的に行うことで自己管理できる素養を育てる。</p> <p>■要支援生徒に対してスクールカウンセラー、まなび・生活アドバイザー、関係専門機関、関係分掌、保護者との連携を密にし、迅速かつ適切な対応を取る。</p>				
保健・環境	教育環境の整備	<p>■学校予算の効果的な配分・執行を行うことで、効果的な教育活動につなげる。また、清掃活動をはじめとする教育活動の中で環境整備の意識を啓発する。</p>				
学校関係者評価委員会による評価						
次年度に向けた改善の方向性						